

高砂市も高砂市民病院将来構想(素案)へのご意見を募集しています。
(詳細は市ホームページや広報たかさご10月号にも記載されています)

パブリックコメント

期間 2023年10月2日(月)～11月2日(木)

市民アンケート

期間 2023年10月6日(金)～11月6日(月)

※市民アンケートについて、郵送は無作為に抽出された市民の方のみとなっています。郵送で届かなかった方は「たかさごナビ」からご回答ください



1日目	10月21日(土)	2日目	10月22日(日)
1回目	10:00～11:30 生石研修センター	1回目	10:00～11:30 市役所南庁舎
2回目	14:00～15:30 北浜公民館	2回目	14:00～15:30 ユーアイ帆っとセンター

連絡先



しまづはるかにもご意見をお寄せください。
ブログやSNSでも、市民病院将来構想に関する記事を配信しています！

- Address 〒676-0071 高砂市伊保東 2-2-23
- Tel/Fax 079-439-2733
- HP <http://shimazuharuka.com>
- E-mail shimazu.takasago@gmail.com
- ブログ <http://shimazuharuka.com/blog>

@shimazu_haruka 島津明香

後援会入会フォームはこちら！

“You Tube”でも『市政報告』をご閲覧頂けます！



LINE公式アカウントでの相談を受け付けています！

公式LINEからもご相談をお受けしています。公式LINEは、私からの発信は皆様に一斉にお送りすることになりますが、いただく返信は私にしか見られないようになっています。安心してご相談ください。

ご登録はこちら！



市政報告News42号では、『高砂市民病院』に関する動きをお伝えします



ご挨拶

9月定例会にて所属常任委員会も変更となり、議会にとって新たな一年が始まりました。私はこの一年間、文教厚生常任委員会に所属します。高砂市政はこの秋、高砂市民病院の将来構想について、皆様にご意見を伺う時期にさしかかっています。この度の市政報告Newsでは、高砂市民病院の将来について、皆様に伺いたい点について私なりにお知らせします。ぜひ、皆様の声を届けていただきたく思います。これからのまちの医療のため、そして高砂市をより良くするために、一緒に考えていきましょう。

高砂市民病院将来構想(素案)とは？

市政報告News41号でもお伝えしたとおり、この秋に今後の高砂市民病院のあり方を考える市の案が出されることとなっていました。長年にわたる経営難に加え、法定耐用年数(建設された平成2年から39年)の経過が迫る中で、建替えや大規模修繕のためにも、規模や経営形態などのあり方を考える必要があるためです。

高砂市民病院将来構想(素案)の概要※1 高砂市民病院のあり方について

医療機能※2	回復期機能+急性期機能(現状通り)
経営形態	当分の間、公設公営の公立病院を維持(現状通り)
介護医療院の併設	併設しない(現状通り)
建物の建替え	移転建替えが効率的
病床数	12床+7α(現状の199床よりもダウンサイジング)



※1 より詳細な内容については、市ホームページに掲載されています [詳しくはこちら!](#)

※2 用語解説・・・医療機能は「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」に分類されます。

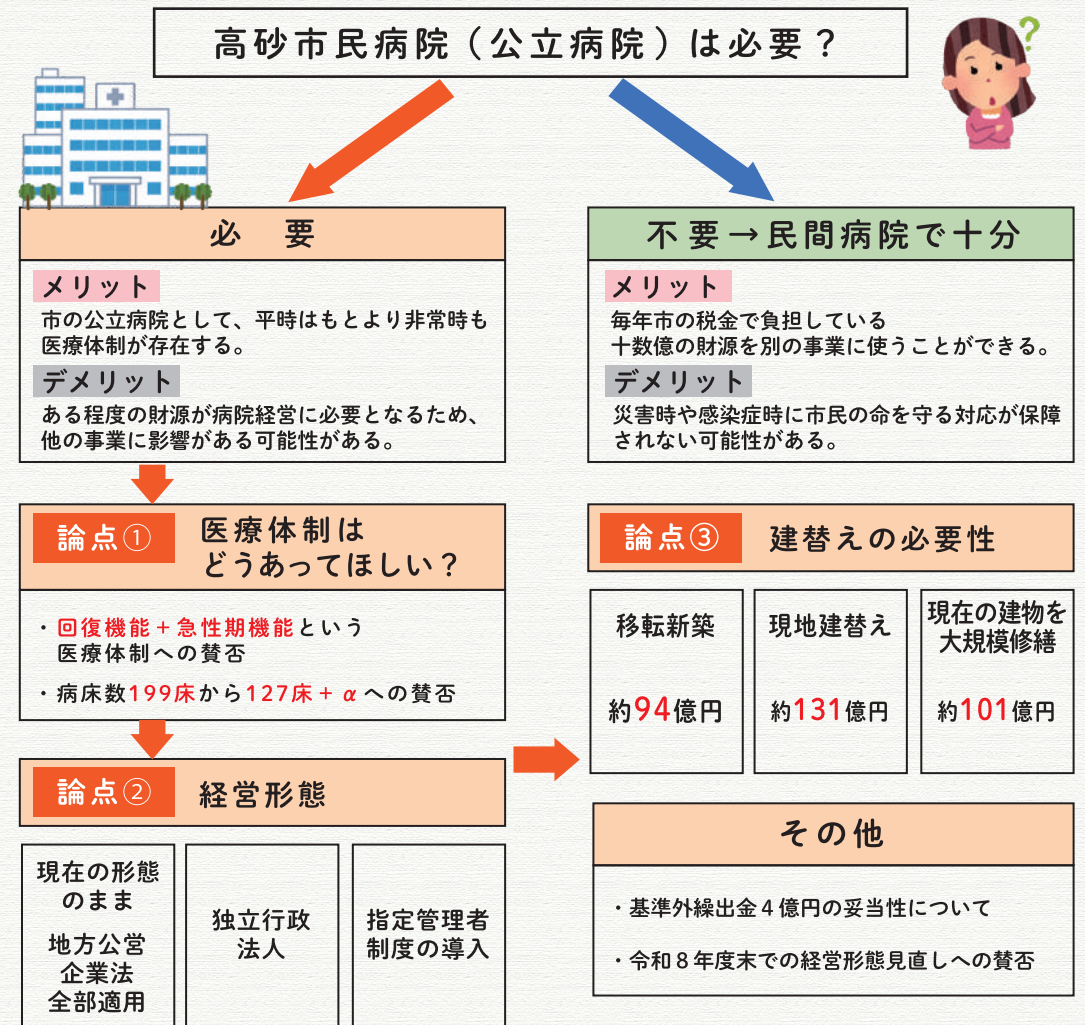
高度急性期	・・・病状が不安定で緊急性が高い患者に、早期安定のための集中医療を提供。救命救急病棟や集中治療室などで行う医療。
急性期	・・・病状が不安定で緊急性が高い患者に、早期安定の医療を提供。
回復期	・・・急性期治療後、在宅復帰のための医療とリハビリテーションを提供。
慢性期	・・・長期間の療養が必要な患者を入院させる医療。

その他

- ・ 医師数について、令和5年度は21名の常勤医師が勤務されていますが、医師確保ができず現状の常勤医師を維持した将来見込みでは、令和12年度には15名まで常勤医師が減少する(定年退職などによる)予測となっています。
- ・ 上記の構想にて令和8年末まで経営を続け、経営状況の改善が見込めなければ(基準外繰出金4億円程度)、経営形態を見直すという考え方が示されています。



どう考える？高砂市民病院の将来構想



島津の考え

高砂市民病院将来構想(素案)への一番の疑問は移転建替えの必要性と時期です。まず、必要性については、現在の高砂市民病院の建物は平成2年に建設されており、まもなく法定耐用年数である39年を迎えようとしています。しかしながら、法定耐用年数は建物の寿命ではなく、建物はまだ使用することができる状態です。また、すぐにでも建替えに向けた動きをする考え、という報道もありましたが、令和8年の経営形態の検討までは少なくとも待つべきと考えます。この点については、これから先、どの程度の病院が必要か、とも関連します。人口も減り、65歳以上の高齢者人口も2021年をピークに減少しています。人口減なども踏まえて、皆様と一緒にあり方を考え、意見をしていけたらと思います。次に経営形態については、医師の方にどれだけ勤めていただけるか、にかかっていると感じています。私たち市民が必要とする病院、そして医療を提供していただける市民病院であることが最も重要であると考えています。そのような病院が他の経営形態でも可能であり、経営形態の見直しが経営改善につながるのであれば、経営形態について柔軟に検討することも必要かと考えています。